



橋戸

令和7年11月28日
学校だより 第8号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊一

相手が安心できる声掛け

校長 青木俊一

先日の学芸会においては、多くの方々にご来場いただき誠にありがとうございました。学級閉鎖の措置により、残念ながら全校が一堂に会しての発表会とはなりませんでしたが、各学年の練習の成果、そして個性が發揮された演目の数々に感動いたしました。児童考案のスローガン通り、「伝説の学芸会」にふさわしい内容で最後の幕を下ろしました。保護者の皆様におかれましては、日々変更される予定へのご対応に厚く御礼申し上げます。

さて、今月11月4日(火)から28日(金)まで「ふれあい(いじめ防止強化)月間」として、都内のすべての小・中学校でいじめの未然防止や早期発見・早期対応に向けた取組を行いました。教員・児童ともにアンケートを実施し、調査から得られた情報は疑わしいレベルであっても丁寧に取り上げ、慎重に協議して対応しています。加えて、学校全体でいじめの根絶を目指す啓発活動を行い、児童がいじめを自分たちの問題として主体的に考え行動することを目指していきます。(対応内容は、いじめに加え・不登校・ヤングケアラー・性暴力防止等も含めます)

学校生活における様々な出来事を、自分たちの問題としてとらえる際の鍵になるのは「相手意識」です。時に、自身の偏った見方で決め付け投げかけた言葉は、到底相手に受け入れてもらえることなく、場合によっては深い傷を負わせることになります。

先日の新聞投書欄の手記を紹介します。街で「外国人はルールを守らない」という声をよく耳にするが、実際は日本の生活ルールをよく知らずに戸惑っていたり、「迷惑をかけてはいけない」と常に不安を抱いたりしながら生活する人も少なくない。文化の違いから行動が誤解を生むこともある。そんな時は冷たい視線を向けるより「こうするといいですよ」とアドバイスしてもらいたい。という内容でした。

学芸会に話を戻します。全校朝会で、学芸会を成功させるためのポイントの一つとして、「仲間を大切にすること」について話しました。具体的には、セリフを忘れた友達がいたら、そっと教えてあげる。自信をもてない友達がいたら「大丈夫だよ」と励ましてあげるなどです。相手が不安になっているときこそ、安心できるような言葉を選び、声掛けできる関係であってほしいと願います。

今回の学芸会は、インフルエンザの流行でやむを得ず欠席する児童がおり、キャスト不足に悩まされました。残念ながら参加できなかった児童の無念さに共感しつつ、急遽代わって台詞を覚えた児童もいました。それでも、橋戸小の子供たちは協力し、励ましあって成功を勝ち取りました。今後の活躍にも期待が膨らみます。